

## 室戸地殻変動観測所における地殻変動連続観測(1996-2002)

## Crustal Movements Observed at the Muroto Geophysical Observatory, Kochi, Shikoku, Japan (1996-2002)

# 大村 誠[1], 中尾 茂[2], 平田 安廣[2]

# Makoto Omura[1], Shigeru Nakao[2], Yasuhiro Hirata[3]

[1] 高知女子大・生活・環境理, [2] 東大・地震研

[1] Dept. of Environmental Science, Kochi Women's Univ., [2] ERI, Univ of Tokyo, [3] ERI, Univ. of Tokyo

高知県室戸岬先端部にある室戸地殻変動観測所(北緯 33 度 14 分 41 秒, 東経 134 度 10 分 51 秒, 標高 10m: 東京大学地震研究所)では, M8 級の南海地震が繰り返して発生する南海トラフ周辺の地殻変動を観測するため, 水晶管伸縮計 3 成分および水管傾斜計 2 成分による地殻変動連続観測が行われている。

今回は, 1996 年 1 月~2002 年 12 月のデータについて初歩的な解析を行った結果を報告する。ひずみ変化は, 北北西から北に圧縮軸をもち, 10~5 micro-strain/yr の縮みが進行している。この 7 年間では, 概ね北北西で 8 micro-strain/yr 程度の縮み速度である。また, 最大傾斜は北西下がりで, 35~15 micro-rad/yr の傾動が起こっている。この 7 年間では, 北西下がり 23 micro-rad/yr 程度の傾動速度となる。ひずみ主軸の方位は G P S 観測結果などと調和的であるが, 最大傾斜の方位は, 水準測量などの結果とは逆向きである。